にかほ市の国際交流事業

国際交流とは…

この夏、姉妹都市のアメリカ・ショウニー市と、同アナコーテス市から、中学生を中心とした訪問団が来市しました。

また、友好都市の中国・諸暨市には、初めて高校生たちが訪問し交流を深めました。

20周年を迎えたショウニー市との交流の歴史や、今夏の訪問団の活動などから、国際交流の意義を考えてみましょう。

訪問交流が国際交流のすべてではないものの、「異なる文化と言語を持つ人々」「過去に戦火を交えた国の人々」との交流からは「地域の活性化」「自己や地域の再発見」「他人を尊重する心」「世界平和への貢献」などがもたらされると考えられます。友情と親和の情が育まれ、子どもたちが国際感覚と広い視野を持つことが期待されます。

多くの国や地域との交流は、未来への投資といえるのです。

（国際交流特集は7ページまで）

にかほ市の国際交流に
関する問い合わせは
企画情報課　☎43－7510

交流が導いたもの…心に残したもの…

戦死した旧日本軍兵士の遺品の日章旗が、ご遺族の星義秋さん（福島県南会津町）の元に返還されました。先の6月にショウニー市を訪問した池田史郎さん（平沢）のホームステイ宅、クリス・シャーマンさんが大切に保管していたもので、今回の訪問団員として長女エマさんが持参しました。（8月15日号6ページ「まちの話題」で一部既報）

シャーマンさんからご遺族へのメッセージを紹介します。

遺族に返還された日章旗

クリス・シャーマンさんからのメッセージ（日本語訳を一部要約）

いくつか確認のできない点もありますが、この話は、叔父から私が聞いたものです。

私の祖父は、アメリカ軍航空隊に1938年に入隊しました。一等兵の通信士で、B－24爆撃機に乗る射撃手でもありました。そして太平洋戦争での空爆作戦の主要基地だったフィリピンに駐在していました。これからお伝えすることは、日付や島の名前については確かではないのですが、1944年の春か夏だったはずとのことでした。祖父の部隊は、南太平洋の島にある飛行場に配備されていました。

ある朝、空襲警報が鳴り響き、8～10機の日本のゼロ戦が確認されました。祖父と何人かが、マシンガンに配置されました。ゼロ戦は、飛行場や基地の中心部に向けて何度か機銃掃射を行いました。星義明（ほしよしのり）さんの乗った戦闘機は、何度も対空砲火を浴びました。機体は酷い損傷を受けていましたが、何とか機首を飛行場に向けて最後の攻撃を仕掛けました。機体は飛行場のB－24爆撃機に向けて飛び込んで来ました。しかし、彼の戦闘機は、もはや操縦できる状態でなく、爆撃機に突撃することはできずに、地面に突っ込んでいきました。そして給水塔にぶつかり、滑って止まりました。祖父たちは、すぐには戦闘機に近づきませんでした。これは当時、日本の戦闘機が“カミカゼ”となり、爆発するのではないかと恐れていたためです。祖父が戦闘機にたどり着いた時、星さんは衝突の衝撃で既に亡くなっていました。星さんは、今、皆さんのお手元にあるその旗を肩に巻いていました。祖父たちは遺体を島に埋葬しました。

祖父は、1978年に亡くなりました。私は3歳でした。祖父は「星義明さんは、ご自分の国を護るために立派に、そして勇敢に戦って亡くなったのだ」ということを、ご遺族に知ってほしいと願っていました。この旗をご遺族にお返しし、大切な家族だっただろう星さんがどのように亡くなったのかを伝えることで、ご遺族の皆さんの心に安らぎが訪れますよう、私も心から願っています。

私たちは、祖国のために戦い、命を落とした方々がいることを、決して忘れることはないでしょう。

交流20周年を記念することしのショウニー市訪問団は、中学生8名、引率を含め大人8名。モニュメントの除幕式や記念式典など、猛暑の中、いつもより少しハードなスケジュールを元気にこなしました。

この20年の間、にかほとショウニーを行き来した団員は、700人を超えます。両市の交流の歴史からは、毎年、新たな喜びと、たくさんの新しい家族が生まれました。

「2つの国の間にある愛を示すことができた」と、ある団員のレポートに記された言葉。長い交流が育み、生まれた言葉です。

▼秋田小町とショウニー小町～竿燈まつり～

【訪問団から】

訪問団長
スティーブン・フォスター

懐かしい友人や、新たに出会った皆さんとお会いできて、とてもうれしく思っています。子どもたちを、「自分の故郷」と感じることができる、このまちへ連れて来ることは、団長として本当に光栄なことでした。

▲ショウニーの子どもたちは消防署が大好き！

▼海水浴も大好き！

また、仁賀保中学校訪問では、生徒と一緒に訪問団員がみんなの前で吹奏楽の演奏をして盛大な拍手を受けたことは、とても微笑ましく、譜面に国境はないのだと感じました。そして、剣道やバスケットボール、卓球などスポーツを通して交流する場面も楽しいものでした。

20年前の姉妹都市契約締結以来、皆さんが私たちと家族になってくださったこと、心を配り一生忘れられない経験をさせてくださったことに感謝します。

10月の再会を楽しみに。

～本特集用のインタビュー訳～

▼20周年記念モニュメントの除幕